

コーデックス食品検査認証システム部会 (CCFICS) 主催アジア地域調整部会
加盟国向けトレーサビリティ・ワークショップ (結果概要)

平成16年6月
農林水産省

- 1 日時・場所：6月1日(火)及び2日(水) 於：シンガポール
- 2 主催：オーストラリア(食品輸出入検査認証システム部会事務局)及びシンガポール政府
- 3 出席国：主催国のほか我が国、タイ、フィリピン
オブザーバー(米国、(EUも招請したが不参加))
- 4 ワークショップ(WS)開催の背景等
 - ① 食品輸出入検査認証システム部会(CCFICS)においては、食品の輸出入管理等におけるトレーサビリティの適用に関する原則等を検討してきているところ。
昨年12月開催された第12回CCFICSにおいて、トレーサビリティについての理解を深めるため、地域レベル及び世界レベルでのワークショップ等を開催することが有用とされ、ワークショップ等における議論の結果を含めて、CCFICS事務局(豪州)が次回部会の原則案に関する討議資料を作成することとされた。
 - ② 議題
 - ア 各国のトレーサビリティに関する制度等のプレゼンテーション及びフリーディスカッション
 - イ 一般原則部会におけるトレーサビリティの定義及びCCFICSが現在意見照会中の暫定原則案についての意見交換
- 5 結果概要
 - ① 各国プレゼンテーション
 - ・ タイ GAP等を進める中で記録保存を推進したい。トレーサビリティの適用のためのモダリティが必要
 - ・ フィリピン 農畜産業が中小零細であることから導入困難であることを強調
 - ・ シンガポール 現在の検疫における要求事項等を紹介
 - ・ 豪州 ICタグを使用した牛の個体識別制度の検討状況を紹介
 - ・ 我が国 我が国におけるトレーサビリティ導入の背景と現状を紹介
～牛肉トレーサビリティ法、鶏卵・野菜等のトレーサビリティについての先進的な取組等に多くの質問が寄せられ、有益であったとの評価を受けた。
 - ② 一般原則部会の策定した定義に関し、これをCCFICSのトレーサビリティの原則に盛り込む場合に適当かどうかという観点から、自由に意見交換が行われた。
 - ・ フィリピンは、定義中 ability を means に修文すべきと主張。総会で提起される可能性もある。
 - ③ CCFICSの原則案(輸入国が輸出国に対してトレーサビリティを要求する場合の原則)についても自由な意見交換が行われた。
我が国を除く出席各国は、CCFICSの原則は食品安全性を目的とするものに限定すべきとの意見であり、CCFICS議長もまず先に食品安全を目的とするものを対象に検討したいとの意向を示した。我が国は見解を留保。
 - ④ その他、米国より、OIE総会において、OIEが動物の個体識別制度について、コーデックスと連携しつつ、ガイドラインを策定することとなった旨の紹介があった。